

## 令和5年6月 区長記者会見【テキスト版】

### 区長

本日は区長就任後2回目の記者会見となります。よろしくお願いいたします。ご説明に入ります前に、6月1日に就任いたしました上野副区長の紹介を申し上げます。5月25日の区議会の臨時会において同意をいただきまして、6月1日付の就任となりました。では、一言、ご挨拶を申し上げます。

### 上野副区長

皆さんおはようございます。副区長の上野でございます。皆さまにご協力いただきながら、豊島区のまちづくりがさらに進みますように努めてまいります。よろしくお願いいたします。

### 区長

それでは早速資料に基づきまして、ご説明をさせていただきます。

本日は昨日開会いたしました第2回区議会定例会、私が初めて区長として臨む定例会になりますので、所信表明の内容と、定例会で提案をしております補正予算の主な事業内容、それから最後に、ぜひ皆さまに取り上げていただきたい、こちらからお知らせしたい、いくつかの点について資料をご用意しております。

それではまず、区政運営に対する私の基本姿勢について申し上げたいと存じます。就任の記者会見のときも申し上げたかと存じますけれども、このたびの選挙において、「ひとが主役、みんなで作るとしまの未来」というのを訴えてまいりました。そしてそれを支える区政運営の基本姿勢として、三つのつながるということで訴えてきたところでございます。昨日の所信表明におきましてもその点を強くお伝えしたところでございます。この豊島区というまちで暮らして、働いて、活動して、そして生きていく「ひと」を主役に、みんなでと

しまの未来を作っていく。そして今のコロナ禍において、私達のこの暮らし、地域経済活動が大きな影響を受けている、こうした今こそ、ちょっと青臭いですが、やっぱり人と人、それから人と区政、それから今まで豊島区が地域の皆さまと丁寧に一生懸命作り上げてきた宝物を未来にどのようにつなげていくかというのが、今新たな区政を担っている私の役割であり使命である、それを全職員で力を尽くしていきたいということを昨日は訴えております。特に子ども・若者・女性の声をしっかりいろんな場面で聞いていきたいということを改めてお伝えしました。また、90周年事業を通じて、280を超える企業の皆さまとこれまでとはちょっと違ったステージで、つながることができました。SDGsですとか、まち作り・ひと作りについて本当にフラットな関係の中でいろんな意見交換ができる、そうした関係が作られたらと思っておりますので、そうしたネットワークも大事な宝にして、新たな課題に真摯に向き合ってまいりたいと思っております。

具体的には8つのテーマということで昨日お伝えしております。

これはもう皆さまも取材をいただいご案内のところではございますけれども、これまで豊島区はこちら左にあります4つのテーマを中心的なテーマとして掲げて進めてまいりました。こちらの大きな柱というのは大事な課題ですので基本に置きたいと思っております。子どもと女性にやさしい、高齢者にやさしい、そして高野区政が大事にしてまいりました文化を基軸にしたまちづくりを進めていく、そして区長に就任して一番思いましたのは、安全・安心なまちづくりをまずもってやらないといけないと思いました。この四つのテーマはベースに置いております。

その上で8つの主要テーマについて、昨日申し述べたところでございます。

どれもこれも重要ですが、まずはやはり子育て支援の充実ということで、今少子化の問題で国や東京都もすごいピッチでいろいろ施策を進めております。少子化もちろんそうですが、コロナが続いていた中での育児中の孤立、子育ての不安感・負担感に対して、どういうふうに応えていくか。国や東京都の動きもしっかりと見た上で、やはり区民が暮らしてい

る地元自治体としてできることをしっかりやっていきたいということで考えております。

二つ目が教育の充実でございます。インクルーシブ教育の充実、これもしっかりやらなければいけませんし、後ほど説明しますけれども、放課後支援、居場所作り、特に中学生に対して力を入れてやっていきたいと思っております。

この他こちらにございます通り、認知症の基本法もできました。認知症に関する支援を初めとした高齢者への総合的な支援も重要です。それから高野区長が「商店街が元気でなければ、まちは元気にならない」ということを信念として申し上げていました、そうしたまちの活力につながる商店街へのご支援、それら先ほど申し上げました豊島区の特徴であります文化によるまちづくり、それから 100 年に向けて、東と西を結ぶ人に優しいウォークラブルなまちづくりを進めたいと思っております。これは新しく就任いたしました上野副区長が中心になって、進めてもらうこととなります。100 年に向けてのウォークラブルなまちづくりを、私も連携してやってまいりたいと思います。

それから安全・安心なまちづくりもありますし、もう一つ SDGs 未来都市でございますので、環境都市を目指すゼロカーボンシティの挑戦も頑張っていきたいと思っております。

それでは具体的に今のような考えに基づきまして、議会で提案申し上げました補正予算の主な内容についてご説明いたします。全体の額などの概要はこちらにある通りです。大きなものから小さなものまで合わせまして 35 事業、18 億 3668 万 3000 円、こちらの規模で提案をしております。

主な事業として一つ目ですけれども、給食費、これは私の公約の中にも入れておりましたが、区立小学校中学校の学校給食の無償化でございます。これは区長の就任以来できるだけ早く実施をしたいという思いがございまして、所管の方で、いろいろな課題を詰めてきました。学齢期のお子さんがある保護者の経済的負担をいかに減らしていくか、いろんな手立てはありますが、物価高騰が続く中で、やはり給食費の無償化、これをまずやりたいというこ

とで、2学期が始まる9月から全ての区立小中学校の児童・生徒の給食費の無償化を図ってまいります。予算額としては4億4400万です。今後、学校給食の質の確保、それから食育の推進を図りまして、安定的な学校給食の提供、子どもの心身の健やかな成長を支援してまいりますと思っております。

子どもの関係でもう一つですが、「としま子どもの権利相談室」を今年の9月に開設いたします。

これは公正中立な第三者的な立場として、子どもからも直接「こんなことが困っている」という声を伺う、子どものための子どもの権利を守る、そうした相談室になります。豊島区では、平成18年に子どもの権利に関する条例というのを制定いたしまして、平成22年度から子どもの権利擁護委員という制度を設けておりました。ただ、子どもから見て、仕組みがわかりづらいとか、権利擁護委員は弁護士の先生なので、ちょっと相談しにくいというのがあったかもしれません。現状はどうかというと、子どもがもちろん直接相談しても良いですが、子どもというよりは、関係機関を通じてご相談が入るというような状況でございます。

もちろんそれも大事なことでありますが、やはり今後は子どもの声、いろんな困りごとがある・悩みがある・不登校が増えている、そうした中で、子どもの声を直接しっかり聞いていきたいという思いから新しい仕組みにいたしました。子どもの権利擁護委員の弁護士の先生は引き続き専門家としておりますが、間に直接相談を聞く相談員を配置いたします。また、

「としま子どもの権利相談室」というわかりやすい看板を掲げます。場所は教育センターがある千登世橋教育文化センターの中に9月にオープンで、火曜から土曜までの10時から17時45分まで開設します。対面でもいいですし、電話でもいいですし、メールやお手紙もOKということで広く子どもたちの声を受け止めてまいりますと思っております。教育センターは、元々教育相談・不登校などの相談を受けていますし、スクールソーシャルワーカーによる支援を行っていますので、相談室に、例えば学校の悩みなどが入ったときには、教育セ

ンターとも連携しながら、迅速に権利の救済を図れるように連携した取り組みを期待しています。額としては 324 万 8000 円で、この相談室の整備のための予算を計上しております。

次のページは、仕組みを拡大いたしました。相談室は先ほど申し上げた 3 名の権利擁護委員と 2 名の相談員でチームを組んで臨みます。相談員は社会福祉士や臨床心理士、保育士、教員などの資格をお持ちで、かつ子どもの相談を実際 3 年以上されている方を配置する予定でございます。子どもの権利相談員は相談室でじっといて待っているだけではなく、学校や子どもスキップ、中高生の支援をしているジャンプ、それから児童相談所の一時保護所もございますので、そちらの子どもたちがどう思っているかなど、こちらからアウトリーチに出ていって、子どもと直接定期的に合うような、より子どもから相談を受けるハードルを下げる取り組みも行ってまいりたいと思います。子どもが何か声を上げるってというのは非常に勇気のいることだと思います。「これに困っている」「こうしたい」と、勇気を持って声をあげてくれた行為を大事にしながらですね、きめ細やかに対応してまいりたいと思います。

次は自転車のヘルメット購入の補助対象を拡大いたします。豊島区は平成 24 年度からヘルメットの購入補助をやっていましたけれども、対象を限定しておりました。具体的には、「豊島区在住、在園、在学の満 13 歳未満のかた」それから、「豊島区在住の 65 歳以上のかた」を対象に、区内の販売店でご購入いただいたヘルメット 1 個につき 2000 円の補助を行ってました。今回ご案内の通り、改正道路交通法の施行で、この 4 月 1 日から自転車のヘルメット利用というのが努力義務化されましたことを受けまして、区民の皆さまに安全に自転車を利用していただけるといふことで、年齢制限なしに「区民のかたは全員対象」に、それから、「区外在住で、区内に在園、在学する中学生以下のかた」といふことで対象を拡大しまして、より安心して自転車を利用できる環境を整えようと思っております。

補正予算額は130万ということで、区内の自転車店で購入したヘルメット1個当たり2000円の補助を行ってまいります。7月から始めたいと思っております。

次は、ふるさと納税の関係でございます。ふるさと納税はいろいろ返礼品競争などが取り上げられることが多くて、私どもも過度な返礼品競争というのは反対の立場をとっておりますが、一方で本区ではふるさと納税の影響による減収が約25億円に及ぶという試算をしております。また他の自治体の取り組みなど見ておりますと、返礼品を工夫することでその自治体のPRになったり、自治体の名産のPRになったりと結果的にその地域の産業の振興につながったりと良い面もございます。今まで豊島区では、返礼品はお出ししていませんでした。トキワ荘の開設とか、運営にお気持ちをいただいた方には感謝状を出したり銘板をお付けしたり、あるいは子ども若者応援プロジェクトということで、子どもたちへの支援で寄附いただいたり、感謝状をお出ししたりいうことをやっていて、返礼品という形ではやっておりませんでした。今回はそうした返礼品のプラスの要素を捉えまして、始めてみよう、その準備の経費を計上しております。具体的には豊島区に宝物がたくさんありますけれども、伝統工芸品、だいぶやっていたいただいている方が少なくなってはきていますけれども、本当に他のいろいろなですね、たくさんいいものがございます。この豊島の宝である伝統工芸品をプレゼントできるような、そこから始めてみたいと思っております。その他、コトのお礼って言うのでしょうか、モノではなくて例えば豊島区は今年から「マンガ・アニメ・コスプレの聖地」と表明したいと思っておりますので、そうした関係の何か体験型のものをお返しに工夫できないかなど、職員で知恵を絞ってまいりたいと思います。まずは12月をめどに伝統工芸品をお返しのできる仕組みをこれから準備してまいりたいと思っております。

次は施設整備の関係でございます。総合体育場の複合施設の整備事業について説明いたします。築56年以上が経過して老朽化している総合体育場管理棟というのがございまし

て、利用されている皆さまから何とかならぬかというような声をずっと受けておりました。そちらの改築とすぐお隣にございます朋有小学校のお子さんが増えて、普通教室の確保が厳しくなってきました。体育施設と小学校が隣接しているという、この立地条件を生かした複合施設としてリニューアルをしたいというふうに考えております。具体的には新しい管理棟は、今テニスコートがある場所を整備しまして、1階は学校、2階と3階は体育施設、地上3階建ての複合施設にしたいということでございます。学校機能につきましても、本体の学校に今入っております、図書館ですとか理科室といった特別教室を新しいところに集約することで、学校の普通教室をきちんと確保することなどを考えております。補正予算はこちらにございます通り、設計費として8600万、債務負担行為を含めると2億8810万でございます。また来年度の当初予算では、これに引き続きまして、工事費を上程する予定でして、現時点では約59億5000万の規模を予定しております。今年の9月から1年間設計を行いまして、令和9年4月に新しい管理棟、学校機能も一緒に入りました新管理棟の開設を予定しております。

補正予算についてのご説明は以上になりまして、その他ぜひちょっと皆さまにこの機会に知っていただきたい取り組みをいくつかご紹介したいと思います。

一つ目が、中学校の放課後支援、今日も同席をしておりますけれども、金子教育長が非常に力を入れております中学生の放課後の支援でございます。部活動・居場所・学習支援というこの三つを柱として一体的に進めていきたいというところが特徴かと思えます。部活動は、各自治体でもどうしようかなってことでやっているところかと思えますけれども、本区では10月から、としま土曜部活動という形で、地域や民間企業などと連携してモデル事業をスタートしたいと思っております。実は先月ですね、豊島区部活動地域連携推進協議会というものを立ち上げまして、そこで部活動をどうしていくかという検討をしていくので

すけども、その中でも、この10月から始まる、としま土曜部活動の実施状況も検証しながら、本格実施に向けた具体的な検討を行ってまいりたいと思います。

二つ目は居場所です。サードプレイスになりますけれども、やっぱり本区においても不登校の子どもたちが増えているという状況を踏まえまして、5月23日に何名もの記者の皆さんにご取材いただきましたけれども、西池袋中学校内に「にしまる一む」というかわいいスペースを作りました。放課後に生徒たちが自由にくつろげる場ということで、中学校のサードプレイスの第1弾、これももうどんどん増やしていきたいと思うんですけれども、教室だとちょっと居づらいなっていうお子さんもいますし、普通教室のお友達とは違うかたとも接点を持てればっていうお子さんがいるかもしれないということで、ちょうど西池袋中学校がですね、中に入りましてスペースがありますんで、そこをかわいらしく、ちょっとプライバシーにも配慮できるような形でオープンいたしました。私も見に行きましたけれども、すごく楽しそうに、話している姿が印象的でした。

三つ目は学習支援でございます。不登校それから、不登校傾向にある予備軍の子どもたちを対象に、年齢の近い大学生のかたなどをサポーター支援員として配置しまして、中学校の中のこれも教室じゃなくて別の部屋で、一人ひとりに合った学習の支援、また、いろんな自立に関するご相談を受けたり、サポートを行うのがいいんじゃないかということで、校内別室指導支援、ちょっと言い方が固いですがけれども、別室でお兄さんお姉さんのような、年の近い方々からのサポートが受けられるような事業を9月からモデル校を設けて実施してまいります。それから「としま地域未来塾」ですね、毎週土曜日に自主的な学習をサポートして、学習の底上げを図るとともに、ここもサードプレイスとなるようにということで区内の3ヶ所で開催をしております。今後は開催箇所を増やしていきたいなということで取り組んでおります。中学生の放課後支援ということで、先生とか、クラスメイトだけでない他の地域のかたとか、ちょっとお兄さんお姉さんとか、そうした教室にはない別の意味での温かい人間関係を築きながら、一人ひとりがもうちょっと頑張ってみようかなとか、これやってみ



たいなっていうような、そうした可能性を引き出せるような支援をしていきたいというふうに思っております。

次にですね、これはもう皆さまにもぜひいろんなところで周知のご支援を申し上げたいと思いますが、プラスチックの資源回収を10月から始めます。これも本当に区民の皆さまにお手数をおかけしますし、お金もかかることですので、踏み込むまでにいろんな検討をしまいましたが、やはりSDGs未来都市として率先してやるべきだという判断のもと、準備を進めております。この4月から8地域でモデル事業をしております。全世帯の約12%の皆さまにご協力をいただいて、やりながらいろんなお声をいただいて、10月からの本格実施に何を反映したらいいのか、分別回収するときに何がわかりにくいのか、町会の皆さまなどからお声をいただいて、本格実施に向けての周知の仕方とか、お示しする内容のブラッシュアップに生かしているところでございます。いよいよですね、10月からということですので、6月13日から住民説明会をスタートしております。今時点で、区内33ヶ所、延べ99回行っておりますけれどもこれからまた加速化して、いろんな地域で「わからないときは何回も行きます」ということで、環境清掃部一丸となって頑張っており、ご説明に回っているところでございます。またスタートに向けて、動画も配信しておりますし、これはプラスチックなのかみたいな、そうした質問にも細かく対応できるようなパンフレットを全戸配布します。「これはどこに、いつ捨てたらいいですか」「これはどうしたらいいですか」というアプリもご用意しました。動画だとかアプリなど目で見られると、外国人の皆さまも多いですので、目で見て、捨て方がわかるような、そういう取り組みもしております。また公民連携でですね、小学校でもゼロカーボンの環境教育というのを5月からスタートしております、子どもたちにわかってもらって、子どもたちからお父さんお母さんに、「こうだよ」なんて教えてもらえるように、子どもたちへの環境教育も引き続き頑張っており、と思っています。

次が、災害時要配慮者対策でございます。これは私が区長に就任しまして、各地域の区政連絡会、町会長さんがお集まりの区政連絡会にお邪魔しているんですけども、やっぱりこの地域でも一番心配しているのが災害時の対応でございます。一人暮らしの高齢者率が日本一高い豊島区ですので、またこのところ、各地域での地震や水害等が多いので、皆さんご心配されております。そうした中で今までもいろんな取り組みをしていたんですけども、いよいよ個別避難計画の作成に今年度から入ります。「そのかたがどこに逃げるのか」「誰がお支えして逃げるのか」「どういうときはここにいていただくのか」といった一人ひとりの避難計画を作ってまいります。作るにあたってはですね、減災や防災に詳しい大正大学の地域構想研究所の方とタッグを組んで一緒に作り始めるつもりでございます。もう一つがですね、安否確認体制なんですけれども、無事かどうかという確認ですけれども、豊島区においては中小の介護サービスの事業者が非常に多く、その事業者の皆さまともパートナーとして連携をして、日頃から使っている介護サービス等事業所の方を通じて、「ご無事ですよ」「この方はまだ連絡とれない」、そうしたネットワークを持ちたいと思っております。区内には325の介護サービス事業所がございますけれども、今、187の介護事業者の皆さんにですね、ご参加をいただいて連携会議を設けて、どういうやり取りがスムーズなのか、何をお願いしたいのかなど詳細を詰めて、連携体制を強化しているところでございます。また、3点目は福祉救援センターの実効性の確保ということでやらせていただきました。コロナもありまして、感染症の対策のことだとか、それからコロナでお家にいる時間が増え、ペットも増えていると聞いていますので、「ペットも一緒に行きたい」とか、ペットはどうするのか、あるいはちょっと高齢者と関係ありませんけど、妊婦の方はどうするのか、避難所に関するいろんな課題が出てきていると思います。

そうした中でも特にやっぱり要配慮者の方が、避難所や救援センターに行き、そのときに安心して避難生活を送るためにどうしたらいいのか、事業者などと一緒に訓練をしていきたいですし、マニュアルの作成も進めてまいりたいというふうに思っております。

最後はですね、皆さまのお手元にもあるでしょうか。かわいいもので、これは職員が全部作ったんですけども、現行の「区民の声」のハガキってというのはですね、すごく愛想がないんですよ。「区民の声係御中」みたいに全く愛想がないものなのですが、小学校4年生の女の子から来たんですよ、私が就任してすぐに。一生懸命書いてくれていたんですが、これはもしかするとかわいいのがあって、子どもがいるところ、学校とか図書館とかスキップとかいろんなどころにあったらもっと書いてくれるかしらと思いました。返事もですね、その小学4年生の女の子には、味気ない色気のないハガキを大人に返すのと同じように、A4の紙に書いてお返ししたということで、やっぱり子どもの声をしっかり受けたいし、いろんな声を受けとめて改善できることはしていきたいと思っていたので、貰う方もかわいいのにして、お返しするのも、封筒も便箋もかわいくしようよ。それで、ちゃんとその子の思いを受け止めて返事しようよっていうことを始めました。そしたらですね、すごくきたんですよ。令和4年度は、味気ないハガキでしたが1年間で4件きました。15歳以下の子から。そしてこれは6月16日の金曜日の午後に、いろんなどこに置き始めたんですけど、まず月曜日、正味1日で9通いただいて、それから昨日までで17通いただきました。一生懸命書いてくれていてですね、中には、「頑張ってください」みたいなものがあるのがあって嬉しかったんですけど、子どもの声がいっぱい来ていて、なるほどなと思うのもたくさんありますね。やっぱり学校のことだったり、おうちの近くでここが暗いですとか、学校から歩いて出たところで、ちょっと車が寄ってきたので、何か注意してもらおうようなものが置けませんとか。本当にかわいいんだけど、切実な声がいっぱい来ておりますので、これは全職員で共有して、特に学校の関係なんかが多いですけど、しっかり真面目に考えて、できることはすぐ、ちょっと考えなきゃいけないことも真剣に大人が考えて、一つでも二つでも対応できるように。それでそうした取り組みをしてるよっていうのを、かわいい便箋と封筒で大事にお返ししたいというふうに思っております。これはちょっと最後、自慢になっちゃいましたけれども、こうしたように子ども、それから同じように若い人かた、女性のかた、もちろん高齢者

や障害のあるかたも大事ですけれども、そうした声をしっかり受け止められる、豊島区でありたいというふうに思っております。

最後に、これはちょっともう当たり前です、行政ですので。「全てのゴールは区民のため」、「区民福祉の増進のため」これはもう当たり前ですけども、全職員が胸に刻んで区民のかたにがっかりされないような、「豊島区、頼りになるな」と思われる豊島区政を頑張ってまいりたいというふうに思っております。30分と長丁場のご説明になりました。私からは以上です。

#### **【質疑応答】**

##### **日経 BP**

区政運営の基本方針にも「ウォークブルなまち作り」という言葉があったと思いますけれども、豊島区は中長期的なビジョンとして、池袋の東口と西口を、二本の歩行者デッキでつないでそこを歩けるようにするとか、あるいはこれから明治通りのバイパス迂回路になる環状5の1ができると、交通渋滞も緩和されて、特に東口というのはいよいよ新しい再開発の次のステップに進むのかなと思うんですけども、改めてですね、豊島区にとってウォークブルなまちってというのがなぜ重要なのかっていうのを一つ教えていただきたいのと、二つ目はですね、これに関連して歩行者ブリッジの南側の結節点には、西武池袋本店もあると思うんですけども、ここの西武さんを巡っては一部報道で、今週会合が開かれるっていうような話もあると思うんですけども、可能な範囲で今何が争点となっているのかっていうのを教えていただきたいのと、あと、前回の就任会見では区長もまずは図面が見たいというお話だったと思うんですけども、改めてですね、今セブンさんあるいはフォートレスさん、ヨドバシさんに対してどのような要望とか、注文があるのかということをお教えください。

## 区長

ウォークアブルなまち作りっていうのは高野前区長が、最終的なイメージとして持っておりました。まずは今、具体的に検討が進んでいる西口をしっかりと作って、そして東と西をつないでいくっていうのが、最終的な構想ですけども、私はハード屋ではなくてソフトの方ですけども、就任会見のときも申し上げたかもしれませんが、まちづくりは、何か道路作るとか、ビル作るっていうことだけではなくて、そこで活動するかた、あるいは来るかた、もちろんそこにはベビーカーの方もいれば高齢者のかたもいれば、障害を持っているかたもいれば、いろんなかたがいるけれども、やっぱりそのかたたちが歩きやすい、出かけやすい、どんどん歩いていけるそうしたまちで、歩いていたらもっと楽しくなっちゃったとか、ここでこんなイベントやっていた、お友達もできた、知らない人といろんなやり取りをして、世界が広がった。ちょっとね、夢物語みたいに聞こえますけど、そういう人が中心でどんどん歩いていけちゃう。バリアフリーは当たり前だと思いますけど。そうしたまちを作っていくのがまちづくりだと思っているんですね。

なので、ウォークアブルっていうのはまさにそういう意味からすると、物理的にもでこぼこがなく、車がビュンビュン来ないで歩いていけるってこともありますし、それに付随して、まちのいろんなところで区民のかたが音楽をやったり、いろんなイベントができたり、みんなで作っていける、そうしたことも含めて、ウォークアブルなまちづくりが重要だなというふうに思っております。

西武池袋の話が出ましたけれども、一部報道なんかでも出ておりましたけれども、なかなかお話できる範囲がどこまでかなみたいなところなんです。事実だけ申し上げますと、6月19日に関係者でお会いをいたしました。その前に、就任会見のときにですね、やはり皆さまからこの関係のご質問をいただいたときに、4月24日に就任した、選挙の翌日に就任しましたので、まだセブン&アイさんとも西武ホールディングスさんとももちろんヨドバシさんとも誰ともお会いしてないので、少なくともそのステークホルダーであるセブン&アイさん、

それから地権者である西武ホールディングスさんのトップには就任のご挨拶を近々行きたいと思う、ということをご説明したと思います。

その後、5月にそれぞれ西武ホールディングスの後藤会長、西山社長ともご挨拶にお伺いしましたし、また5月にセブン&アイの井坂社長、それから担当の役員の皆さまにご挨拶に伺ったところでございます。セブン&アイさんの方にはそのときに、お願いをしたんですね。そのときはご挨拶なので、一対一関係ですけれども、こう一対一関係でというのではなくて、西武ホールディングスさんとかも関係者が集まって、みんなで状況の共有ができる場を設けてほしい、ということが一つ。

もう一つは、当初高野区長とそれから地元の商店会長、それからまた商工会議所を初め区内の経済団体の皆さんが、相当やっぱり心配されて、嘆願書も出されております。

で、その後どうしてるのかと区民の皆さまもそうですけど、ご心配されているということもあるんで、行政としては少なくともその嘆願書を出した方々には状況をお伝えして、いろいろお声も聞いて、次にその関係者が集まる席には臨みたい、と。したがって、一つは「関係者が集まる場を設けてください。」そこに臨むにあたっては、「それまでに私がそのまちの方々と、情報を共有できる、その上で、私はその声を背負って臨みたいので、お示しできるような資料を作ってほしい」というようなことをお願いしたところでございます。残念ながら、多分企業内部での調整ですし、決定しているものじゃないので表に出せないってことなんだと思うんですけども。結果的には商店街やまちのかたにお示しできる資料はご提供いただけなかったんですけども、6月19日にその3社とフォートレスさんもいらっしゃいましたけれど、面談の場が、6月19日に初めて関係者みんなが集まるという場があったというところですね。

## 日経BP

今後、第2回・第3回と打ち合わせをされていかれるのか、一旦妥決点みたいなことをこれから実務者レベルで探っていくのかっていうところと、あとは、今回のこの会合はそうす

ると、豊島区側が強く要望されて実現したというふうに考えていいですか？

## 区長

そうです。もう再三お伝えしました。この間の6月19日の詳細はちょっとお話しづらいところもあるんですけども、こちらとしてはこれで終わりってことはもちろんなくて、「次の会も設けてほしい」と言いましたし、引き続きやはり私としては「商店街さんなどに状況は伝えたいんです。」というようなお話もお伝えしております。

そして私も言いましたけれども、出席されていた後藤会長の方からも、最初もおっしゃっていたし、最後もおっしゃっていたと思うんですけど、「当事者であるヨドバシさんがこの場にいない」ということについては、ご指摘がありました。

本来であれば、最終的に何かを担っていくヨドバシさんがここの同じテーブルについて、どういうふうにやっていくんだっていうような説明をする必要があるのではないかと。といったお話は後藤会長からもありましたし、私もそのように思いました。

## NHK

それに関連してなんですけれども、詳細は申し述べるのが難しいというふうにおっしゃいましたけれども、この6月19日の会合の場で、先方からどのような説明があって、そして区としてはどのように、改めてご意見をされたのか。

先ほどもまちの関係者に示せるような資料はっていうことでしたけれども、今後の見通しも含めて、どのように話をされたのか。

## 区長

はい。先方からはですね、案はお出しいただいております。ただ、私も百貨店のプロじゃないので、これが案と言えるのか、言えないのかはわかりませんが、一応こうですというものが配られました。私の方からはですね、豊島区としてはやはりもう長い間そごう・西武といいますか西武池袋本店ともずっと信頼関係で、まちづくりも含め、いろんな意味で連携してやってきて、すごく緊密な信頼関係にあります。

コロナでちょっと業績も落ちたかもしれませんが、やっぱり全国的に見れば、頑張っ  
ていらっしゃると思っておりますし、これからもウォークアブルなまちづくりをやっていく、  
文化を基軸にしたまちづくりを進めていくっていう中で、これは私としては、そこに西武池  
袋本店があるっていうのは、もう絶対条件だというふうに思っておりました。万が一ですね、  
何か営業が傾いちゃってですね、百貨店の体をなしてないじゃないかとなったりしたらも  
うえらいことなわけで、それは多分そごう・西武さんの中でも、池袋本店がおかしいことにな  
ったら稼ぎ頭でしょうから、そごう・西武自体が沈没しちゃうかもしれないし、私達とし  
てもあそこにある西武池袋本店が今の今まで培ってきたような賑わいだとか、みんなに楽  
しんでもらっている、多くの人に来てくれているというものがなくなってしまうたりする  
と、東口の商店街にも大きな影響があるし、ましてやそれは西口にも、池袋のまち全体の賑  
わいだとか人流にも大きな影響があるというふうに私は思うので、そういう意味ではプラ  
ンはお示しをいただきましたけれども、これがちょっと口幅ったいので何て言ったらいい  
のか分からないですが、どこのフロアに何が入ったらいいとか悪いとかっていうのは行政  
としては言えませんし、わかりません。ですけれども、やっぱり池袋本店を張ってきたそご  
う・西武さんが、これならいけるとかですね、これだともっとこうすごいことになりますよ  
ってというようなお話があるのであればね、それは一つのプランとしてあるのかもしれませ  
んけども、その辺もわからないので、良いとか悪いとか言える立場にないと、申し上げまし  
たし、さっき日経 BP さんにお答えしたように今回で終わりということではもちろんなく  
て、継続してこうした場をお持ちいただくのはどうかというようなことを、是非引き続き  
やってほしい。まちのかたがたからもですね、商店会長さんなんか、ちょっとゴールあり  
きになっているんじゃないかと。自分たちは一切説明を聞いてないし、西武池袋本店は大事  
な大事な存在なのに、そこがどうしようとしているのかっていう説明を全く聞いていない。  
なので、非常に自分たちも心配している。拙速にやらないで欲しいということは伺っており  
ますので、そうしたお気持ちはお伝えをしました。



## NHK

ということはやはり、向こうからその指定があったフロアというのが、なかなかこう、これまで区として、やっぱり正面の顔になる部分にヨドバシさんがどんとかう入ったりとかっていうことにはちょっと懸念を示されて、まあ高野区長の時から示されていらっしやいましたけれども、やはりそういうような形のものが示されて、区としては、なかなか…

## 区長

そうですね。良いとか悪いとかはわかんないですね。

私に分かりたいと主張したのは、どこに何が入る、ブランドが入るっていうのは別にその民間の話です。私がすごく懸念してるというか、願っているのは、当たり前ですが、より良くなってほしいわけなんですよ。何か手を入れるっていうわけだから。この豊島区にとってすごく魅力が増す、人も増える、価値が上がるっていう、そういうものを願っているんですね。行政としては、だからそこが私はまだわからないので、そのようにお伝えをしました。

## NHK

別件で、ふるさと納税なんですけれども、すいません。返礼品をこれまで導入はしていません。導入をしていくということで、世田谷区さんとかでは、やはり住民税の流出でかなり問題になっていて、去年、返礼品を導入ということでしたけれども、豊島区でもやはりそのような危機感があっての返礼品の導入なのか、その辺を教えてください。

## 区長

そうですね。やっぱり25億というのがありますので、そこは気になることはありますけれども、一方で23区もおっしゃる通りいろんな取り組みをしていてね、なんか銭湯で一番風呂に入れるとか、そういうのも含めて知恵を出してやっていて、それはやっぱり一つのシティプロモーションとしては面白いなというのもありましたので、税金を取り返すっていうのももちろんですけども、何としても取り返すというよりは、これを機にいろんな発

信をしていきたいし、一生懸命やってくださっている伝統工芸の宣伝もしたいとか、アニメのまちを宣伝したいとか、そういうシティプロモーションの面が強いですかね。

## 産経新聞

そごう・西武の関係で1問伺います。先ほど区としてはプランについて判断できないというお話でしたけれども、そうしますと、逆に言うとステークホルダーである地元の商店街さんですとか地権者さんですとか、そごう・西武の従業員さんですとか、そういうそのステークホルダーが納得できる案であることが必要であるということでしょうか？

## 区長

そうですね。多分従業員の皆さんもそうですし、地域の商店街の皆さんもそうですし、一番心配しているのは、これによって大事にしてきた、みんなで作ってきた池袋のまちに陰りが出るようなことは絶対避けなきゃいけないし、特に先ほど申し上げた100周年に向けてウォークアブルなまちという大きい構想を持っていて、もちろんウォークアブルは池袋だけではありませんけれども、やっぱり池袋の駅の東西をいかにこうしていくかっていうのが一つの大きいポイントですので、そこを進めていくのに西武池袋は核になるのは間違いないという中で、そこに陰りが出るようなことは避けたいというふうに思っておりますので、そこは地元の皆さんも共通ではないかと思います。

## TOKYO MX

そごう・西武さんの件で度々失礼いたします。1点確認なんですけれども、先ほど、先方からの案はお出ししてもらったということでお話されていましたが、この案というのは、低層部にヨドバシさんが入るという案だったのか、いい悪いは判断できないとおっしゃられましたけれども、事実としてどういった案だったのか、もう少し具体的に教えてください。

## 区長

正確ではないかもしれませんが、先日報道されたものに近いんじゃないでしょうか。

## TOKYO MX

先日報道されたっていうのは、もう少し具体的に教えてください。

### 区長

半分じゃないですけど、ある部分についての低層部にはヨドバシさんが入っている案です。

## TOKYO MX

高野区長がおっしゃっていた、地下から地上4階までという理解でよろしいですか。

### 区長

そうですね。具体的なところはあれですけども、ある一角についてはそうだったんじゃないかということです。

## 日本経済新聞

お話は少し変わりました、豊島区とは直接関係はないのですが、ジェンダーレストイレというのが各地で広がっているといいますか、スペースの関係で、障害者用であったり、多目的トイレと女性トイレが一体型になっているトイレがある話が報道されております。豊島区はどちらかというとな女性のトイレを拡充するというような大義名分のもと、いろいろな施策をされていて、非常に私も勉強になるとか、改めて今そういった動きが広がっておりますけれど、それについての考えといたしましうか、豊島区として女子トイレを推進してきたことについてなぜそうしてきたのか、ジェンダーレストイレについてのお考えなどがありましたら教えていただきたいなと思います。

### 区長

女性のトイレは高野区長が本当に力を入れて行ってきて、やっぱりトイレが自慢できるまちっていうのは素晴らしいまちだっけですよね。消滅可能性都市に指摘されたときに子どもと女性にやさしいまちを作っていくということで、F1 会議の女性に集まってもらっているいろんな意見をもらったときに、例えば公園のトイレが汚いとか、入りにくいかいろ

んな意見がありました。まずトイレを綺麗にしとこうよってということで、私も女性なのでとてもわかりますね。どこに行っても、トイレが綺麗だとすごい評価があるし、嬉しいし、いいまちだなんて思います。そこで力を入れてきましたし、ハレザ地区の区民センターもまずもってトイレをきれいにしました。そこにはアニメイトさんがお隣にあるので、若い子たちが集まっている。そういう子たちも利用してくださったり、それこそサードプレイス化したりしている部分もある。私も女性のトイレが快適っていうのは非常に良いことではないかなと考えております。

ジェンダーレストイレはいろんな意見があるので、ちょっと動向を見たいと思いますけれども、どちら側の立場の気持ちもわかります。ただ今は女性のトイレを綺麗にすることと多目的トイレをしっかり整備するってということでやっています。今すぐジェンダーレスな仕組みにしようとは考えていないのですけれども、ちょっとご意見を聞きながらと思います。私自身は今、ジェンダーレストイレを推進しようとは思っていませんけれども、いずれにしてももう少しいろいろなお声を聞いてみたいと思います。

## 日本経済新聞

選択肢から排除しないということでしょうか。

## 区長

そうですね。声を聞きたいと思います。個人的には必ずそれを1か所は設けなきゃとかは思っていないですけども、それは私の今の感覚だけなので、いろいろなお声をしっかり聞いていきたい。

## テレビ東京

そごう・西武についてちょっと聞かせてください。まず一点、先方から示されたフロアプラン、これなかなか中身はお話できないと思うのですが、これは当初示されていたものと、6月19日にその示されたものでは変更っていうのはあったのでしょうか。同じものだったのでしょうか。

## 区長

その3社の関係者が集まったところで示された、正式にと言うのでしょうか、それは初めてなので、前に示されたというものが、どういうレベルのものを思っておっしゃっているかわからないです。関係者がいるところで、みんな共通の場で説明されたのは今回初めてです。

## テレビ東京

なるほど、ヨドバシさんの割合が当初に比べて少なくなったのか、または増えたのかは全然わからないということですね。これはちょっと確認ですけど、6月19日の三社会合にヨドバシさんは呼ばれていなかったのか、呼ばれていたけど来なかったのか教えてください。

## 区長

そこはわかりません。こちらはヨドバシさんが出られるんですかっていうお尋ねはしました。ですが、お伺いしたらいませんでした。

## テレビ東京

これは仮の話で恐縮なんですけどもそごう・西武の株式譲渡は仮に競合する形で実行された場合、区としてどのような対応をとるのか、既に考えていることがもしあれば、ちょっと聞かせていただきたいです。

## 区長

企業のことなのでどういうスケジュール感で進めるのかわからないです。今後どういう形でどんな手順で進めていくのですかというご質問をしましたがけれども、あんまりはっきりにした答えはいただけなかったです。行政としてできること、できないことっていうのはありますけれども、こちらとしてはやはりまちの皆さんのご意見がありますし、こちらが一番懸念していることをこの間もお伝えしましたがけれども、そこはやはりまたお伝えをしていかなきゃいけないと思います。まちの声、それから行政の思いを継続して伝えていきます。

## 朝日新聞

まず予算についてお伺いします。給食費の無償化ですけれども、これを導入した意義や思いを改めてお願いします。

## 区長

子育て家庭の経済的負担っていうのは何とかしなければというのは、かねてより思っていました。物価高騰も続いておりますし、学校給食についてはいろんな意味ではいろんな支援をしてきたのですけれども、やはりここのご家庭での負担っていうのが、少なくないです。また国の方も検討を踏み出したということもありますし、ここはもう区として早い段階から始めるべきということで、学校現場の混乱なんかもないように、そんなところも検討しながら考え、一番早い時期が9月という判断をしたところです。

## 朝日新聞

これに関連してなんですけれども、これは年度末までの事業なのかというところが一点と、この春まで導入に慎重だった区が一転して対応を変えた理由についてご説明いただければと思います。

## 区長

今年度の予算でやっていますが、子どもの給食のことですので、やめられないと思います。継続してやるべきものだと思っていますので、そういう意味でも、本来やるのは国であるという認識ですので、そこは訴えていきたいと思っております。

それから実施についての判断ですけれども、選挙のときもですね、「副区長の時にはやらないで、区長になったらやるんですか」って言われましたけれども、決して考えを一転したつもりはありません。いつからやるかということを考えていたというのが正しいかと思えます。予算特別委員会のときも、「これは全くやる必要ありません」なんていうことは申し上げてなくて、ただやるとなると本当にお金がかかることですし、今まさにご質問あったように、来年やらないのですかっていうわけにもいかないのです、財政面をしっかりと考えた

上で踏み出すというのが行政の責任だというふうに思っておりました。そうした中で国の動きもあり、一方で物価高騰も続いているという中において、まだどこのお金をどう最終的に充てられるのかというのがありますけれども、国が一定の方針を出したという中においては、区で工夫して財源確保しながらやっていきたいという判断でございます。

## 朝日新聞

2点目、子どもの権利相談についてですけども、この子どもの権利とは一体どのようなものを想定されていて、こういった背景、課題があったからこの仕組みを作る必要があったのかについてご説明をお願いします。

## 区長

子どもの権利は本当にたくさんあると思います。学校への不満もあるでしょうし、例えば教員のかたの対応によって、これだけ心が傷ついたりとか、学校に行けなくなっちゃったとかいうのもあるでしょうし、お友達との関係のこともあるでしょうし、その子が健やかに育っていく上で障害となるものは、まずは権利の侵害というふうに捉えて、ご相談については対応したいと思います。一つのきっかけという意味では権利条例を作っていたという、子どもの権利についても重くとらえ、子どもを大事にしてきた区であるということもあります。あとはやっぱり児童相談所を作ったっていうのは大きかったと思います。子どもの命を守り抜くっていう児童相談所を作りましたので、子どもの声、子どもの権利を、より聞いていかなきゃいけない。それとプラスですね児相自体が一時保護所を持っているので、そんなことがあったらもう絶対困っちゃいますけど、一時保護所の中での権利侵害っていうのもないとは言えないので、そういうところにも自らしっかり対応できるようにと思います。そういったこともございまして今年度、9月の設置に至ってございます。

## 都政新報

8日に行われた高野前区長の偲ぶ会について伺います。これについて一部の区民から税金で賄われるのに、議会に諮られてないってことについて疑問の声が上がっています。これに

ついて高際区長のお考えをお聞かせいただければと思います。

## 区長

今回の偲ぶ会の実施については早い段階から区民の皆さま、いろいろな団体の方からぜひということでお声が上がりました。なので、豊島区主催ではなく、豊島区・豊島区民の共同開催という形で実施をいたしました。経費については、他の自治体の例でも、やはり特に現職の首長がお亡くなりになった場合などには、公費でやっているという先例もございます。ただ税金でやりますので、今回の額がもう相当だとおっしゃるかたもいらっしゃると思いますが、経費についてはできるだけ抑えた中で、知恵を絞ってやろうということを進めておりました。今回は予備費を使って実施いたしましたが、議会の方にはこういう規模で、こういう形でやらせていただきたいという報告はして進めていました。結果についてはですね、いくらかかったかも含めまして、昨日、議会報告はさせていただきました。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)